



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2022.11.8

「ギャングエイジ」劇団風の子

今年度も劇団風の子さんによる演劇「ギャングエイジ」を観劇しました。今回は風の子さんの中部支部（岐阜県）から5名の方が来られていました。マイクロバス一台に舞台装置も詰め込み来校されました。当日も、朝7時に来られて3時間ほどをかけて舞台を組み立てられていました。5名の方が、劇中では一人何役も演じ（今回は登場人物が絞られていましたが）、舞台装置を動かす際は、帽子をかぶって黒子を表現されていました。もちろん、舞台の組上げ、解体も5人でされていました。限られた舞台装置を有効に使うために、縦2m×横1mほどの木枠を、フレームに使ったり組み合わせてオブジェのように使ったり、スクリーンを降ろして後ろから光を当てて影絵風にしたり、その使い方は変幻自在で、驚かされました。翌日は福岡に入るということで、15時ごろ出発されていました。5時間ほどはかかるでしょうか。情熱を持ってされていることが伝わってきました。

目の前で繰り広げられる演劇は、大変迫力があります。セリフの声や歌声が空気の振動として直接伝わってきます。少人数での観劇だからこそ、演者の光る汗が見えたり、息遣いも感じることができたりします。床から伝わってくる振動も含めて、五感を刺激する体験です。だからこそ、内容も心に自然としみ込んでくるのだと思います。映像だけでは、場合によっては頭だけの理解になりますが、生の演劇では体全体で感じることで、受け取り方も変わってくるかもしれません。今では、インターネットが発達して遠くからも品物を取り寄せることができるので、地方だからと言って物が手に入りにくいということはなくなってきていると感じますが、生のエンターテイメントに触れることができるチャンスの量は都会にはかなわないと感じます。新宮小中学校の子どもたちには、今後もできるだけ直接本物に出会える機会を持っていきたいと考えています。

感想からの一部抜粋

- 「息がぴったりですごいなあ」と思ったし、「すごくおもしろいな。」と思ってプツと、ふき出してしまいました。本当に上手だったし、すごいしハラハラドキドキワクワク、色々な感じようがありました。そして、「げきってこんなに練習を重ねると、とって上手になるんだなあ」と思いました。（小学生中学年）
- 夢はあきらめなかったら叶うということを教えてもらいました。(略) エイジがココロの夢を叶えるために一緒にしているところを見て私もエイジみたいに優しい人になりたいと思いました。（小学生高学年）
- 私は、今回の演劇を見て勇気をもらいました。「自分はありのままの自分でいい」ところちゃんのシーンを見ているときに思いました。（中学生）

